

令和4年度

動物愛護、安全安心まちづくり・犯罪被害者等支援、キャッシュレス決済に関するアンケート

医療保健部 食品安全課
環境生活部 暮らし・交通安全課
デジタル社会推進局 デジタル事業推進課

〔アンケート概要〕

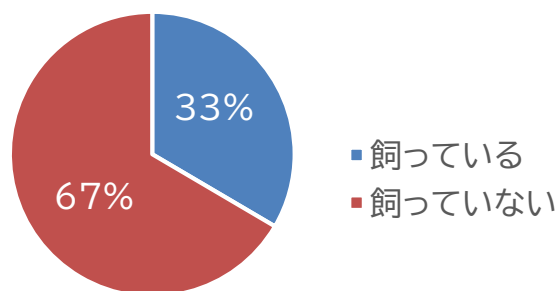
- (1) 実施期間 令和4年12月14日(水) から 同12月28日(水) まで
(2) 対象者数 1,384人
(3) 回答数 798人
(4) 回答率 57%

●アンケート結果の概要及び簡易分析について

Q1 あなたはどんなペットを飼っていますか。(複数回答を含みます)

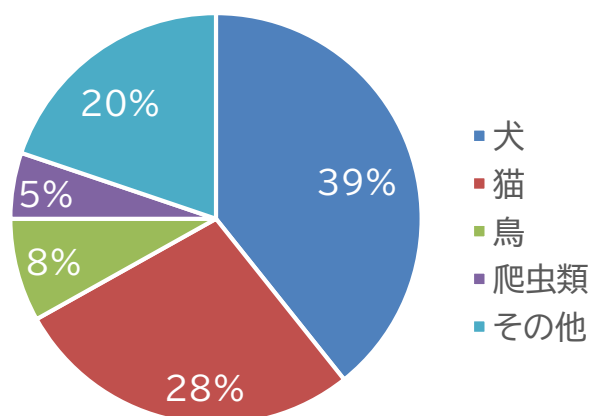
	飼っていない	飼っている	内 訳				
			犬	猫	鳥	爬虫類	その他
人数	531	267	121	85	25	16	61
割合	67%	33%	39%	28%	8%	5%	20%

ペットの飼育状況



ペットを飼っている人は、全体の33%でした。

飼われているペットの種類



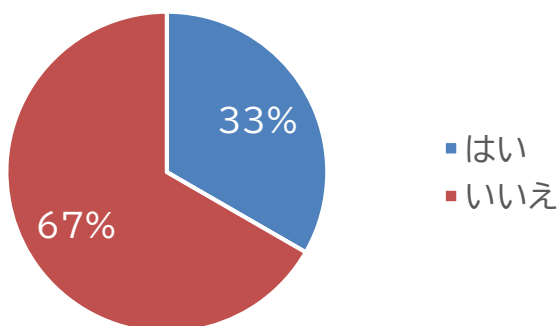
ペットを飼っている人のうち、犬を飼っている人は39%、猫を飼っている人は28%でした。

その他としては、ウサギ、ハムスターなどの犬猫以外の哺乳類、金魚やメダカなどの魚類、カエルやイモリなどの両生類を飼われている方もいました。

Q2 ペットの防災対策について

Q1で「ペットを飼っている」と回答された方にお聞きします。(267人)
ペットの防災対策をしていますか。

ペットの防災対策の実施状況



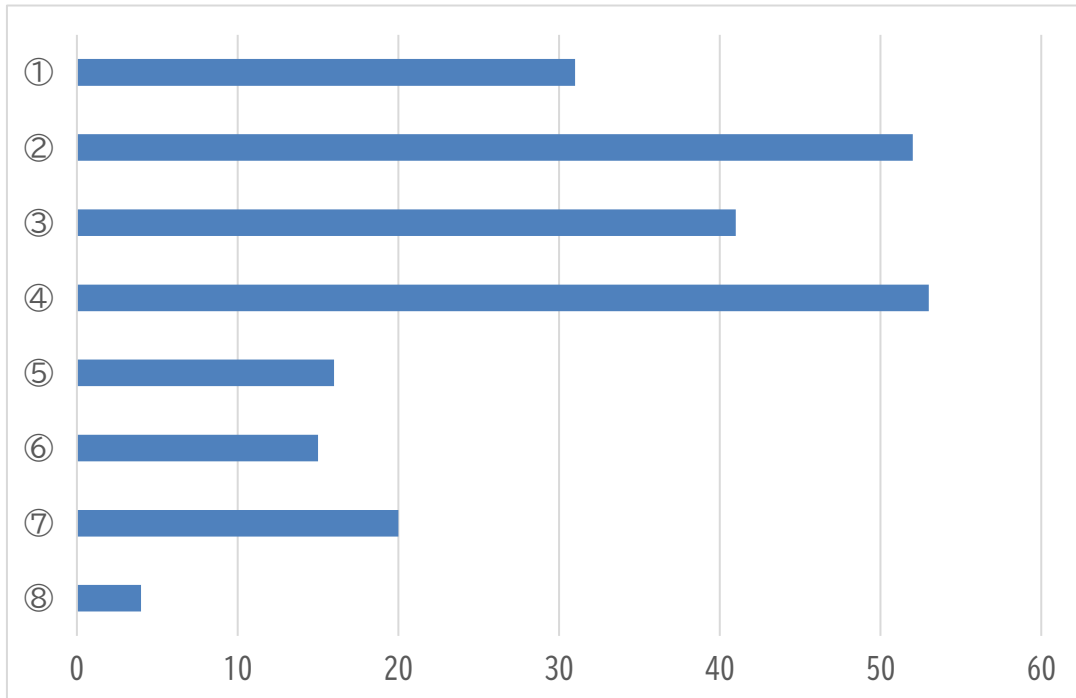
Q1でペットを飼っている人のうち、33%がペットの防災対策を行っていることがわかりました。

Q3 ペットの防災対策について

Q2で「はい」と回答された方にお聞きします。(89人)
どんな防災対策をしていますか。(複数回答を含みます)

ペットの防災対策として実施している事項

人やペットがケガをしないよう、家具の固定や転倒防止対策をしている (グラフ項目①)	31	35%
避難所での生活に備え、基本的なしつけと各種ワクチンやノミダニ駆除を している(グラフ項目②)	52	58%
万一、ペットとはぐれてしまったときに備え、マイクロチップやそれ以外 の方法(迷子札)などで所有者明示をしている(グラフ項目③)	41	46%
避難用のキャリーバックやフード・水などを備蓄している (グラフ項目④)	53	60%
ペットを連れての避難に備え、ハザードマップや避難場所までのルート の確認をしている(グラフ項目⑤)	16	18%
普段から、ペットの避難方法や集合場所を、家族で話し合っている (グラフ項目⑥)	15	17%
親戚宅や友人宅など、ペットの一時的な避難場所を確保している (グラフ項目⑦)	20	22%
その他(グラフ項目⑧)	4	4%
合計	89	



Q2で「防災対策をしている」と回答した89人にお答えいただきました。

ペットの防災対策としては、「避難用のキャリーバックやフード・水などを備蓄している」がもっとも多く60%・53人でした。次いで、「避難所での生活に備え、基本的なしつけと各種ワクチンやノミダニ駆除をしている」が多く、避難所での生活を見据えた対策が取られていることがわかりました。

その他として、避難所に受け入れられないことを想定した備えをしている方もいました。

平時からの準備がとても重要であり、定期的なフードや水の点検に加え、しつけや予防接種など、避難所での生活を考慮した準備も必要と言えます。

三重県動物愛護推進センター「あすまいる」のホームページでは、ペットとの同行避難に必要な備蓄や防災用品を紹介していますので、是非ご覧ください。

Q4 ペットの所有者明示について

Q1で「ペットを飼っている」と回答された方にお聞きします。(267人)

飼われているペットにマイクロチップを装着していますか。

	装着している	装着していない
人数	69	198
割合	16%	84%

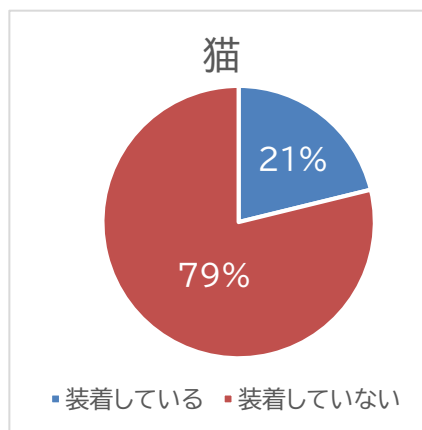
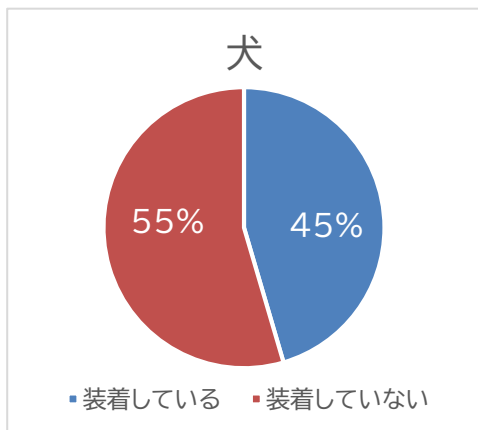
Q1でペットを飼っていると回答した267人にお答えいただきました。

飼っているペットにマイクロチップを装着している人は、16%・69人でした。

ペットにマイクロチップを装着している69人は、すべて犬又は猫を飼っていたことから、犬、猫を飼っている人のみを対象に集計した結果は以下のとおりでした。

	装着している	装着していない
犬	55	66
猫	18	67
合計※	69	128
割合	35%	65%

※うち、9名は、犬と猫の両方を飼育。



犬、猫を飼っている人のみを見ると、犬で45%、猫で21%、犬猫合わせて35%の人がマイクロチップを装着していることがわかりました。

災害時の対策としてだけでなく、ふとしたことで、屋外や敷地の外へ出てしまうこともあるかと思います。迷子になったとき、無事に飼い主の元へ戻れるよう、マイクロチップを装着しましょう。

令和4年6月に「改正動物愛護管理法」が施行され、販売される犬や猫へのマイクロチップの装着と飼い主等の情報の登録が義務付けられます。マイクロチップが装着された犬や猫を購入した飼い主は、登録されている飼い主等の情報について、変更手続きを行う必要があります。

また、譲り受けた犬や猫にもできる限りマイクロチップを装着し、忘れずに情報登録を行いましょう。

Q5 避難所に同行避難した飼い主とペットを受け入れるための備えについて

地域の避難所で、同行避難した飼い主とペットを受け入れるために、地域でどのような備えが必要と考えますか。(複数回答を含みます)

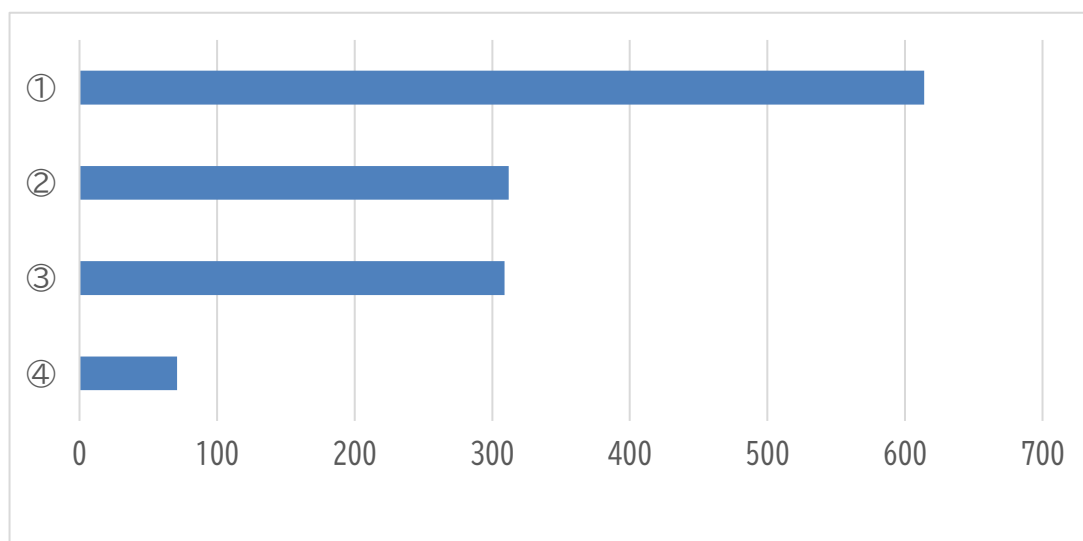
ペットの同行避難は飼い主責任を前提としており、ペットの飼い主には、平時からQ3でお聞きしたような備えを行っていただく必要がありますが、それ以外に、避難所でペット同行避難者を受け入れるために、地域で必要な備えについて、ペットの飼育状況にかかわらず、すべての方にお答えいただきました。

最も多かったのは、「避難所の備蓄品の充実」で、77%・614人でした。

その他として、「避難所内で、人の生活場所とペットの飼育場所のエリア分けを行う」「ペットの同行が可能な避難所を指定し周知する」「ペットの同行避難を踏まえた避難所運営マニュアル

の整備」「飼い主が備えるべきであり、ペットに税金を使うべきではない」「動物が嫌いな人もいるため、避難所にはペットを入れないでほしい」という意見もありました。

避難所の備蓄品の充実（ペットを管理するためのリード、ケージ等） （グラフ項目①）	614
地域内でのペット飼育状況の把握（グラフ項目②）	312
ペット同行避難訓練の実施（グラフ項目③）	309
その他（グラフ項目④）	71

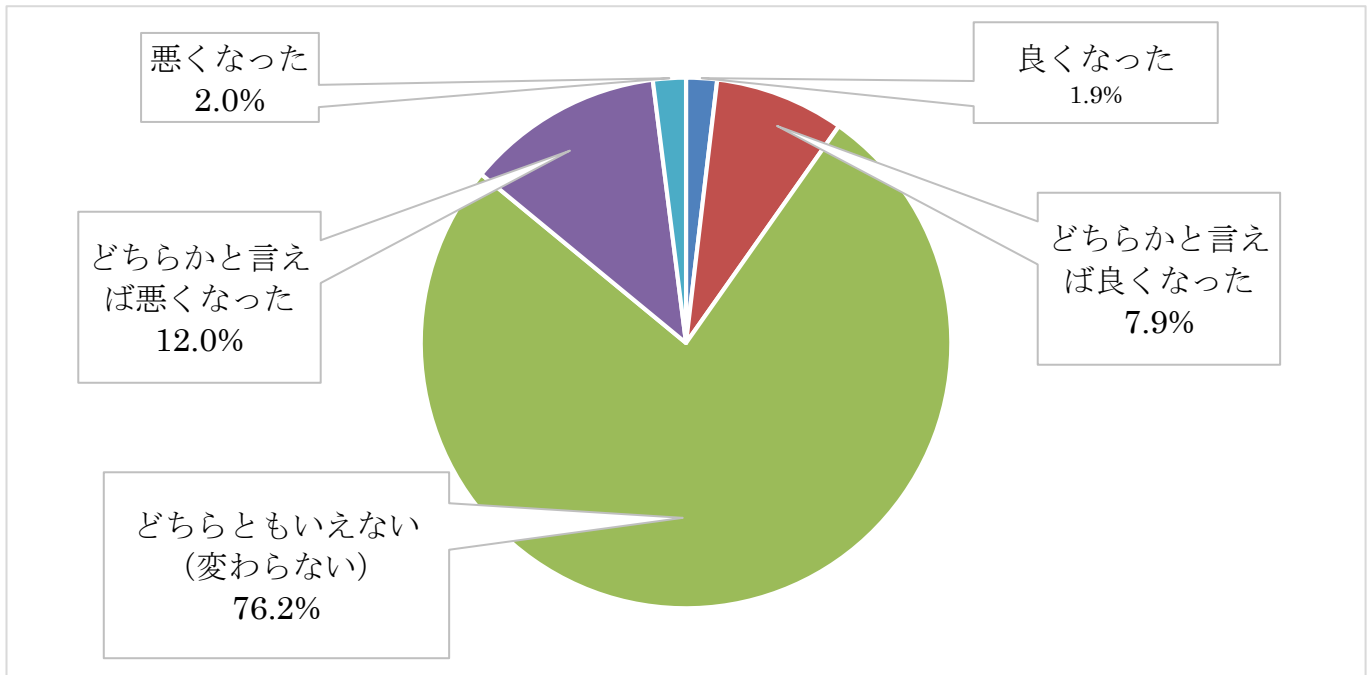


災害が発生したとき、ペットの命を守るためだけでなく、地域の皆さんが安全に避難していただくためにも、県はペットの同行避難を推奨していますが、動物に対する価値観は多様であり、避難所での動物の取扱いにはさまざまな課題があります。

飼い主への平時からの備えに関する啓発に加え、避難所運営に関する課題についても関係者と連携して検討していきます。

Q6 治安について

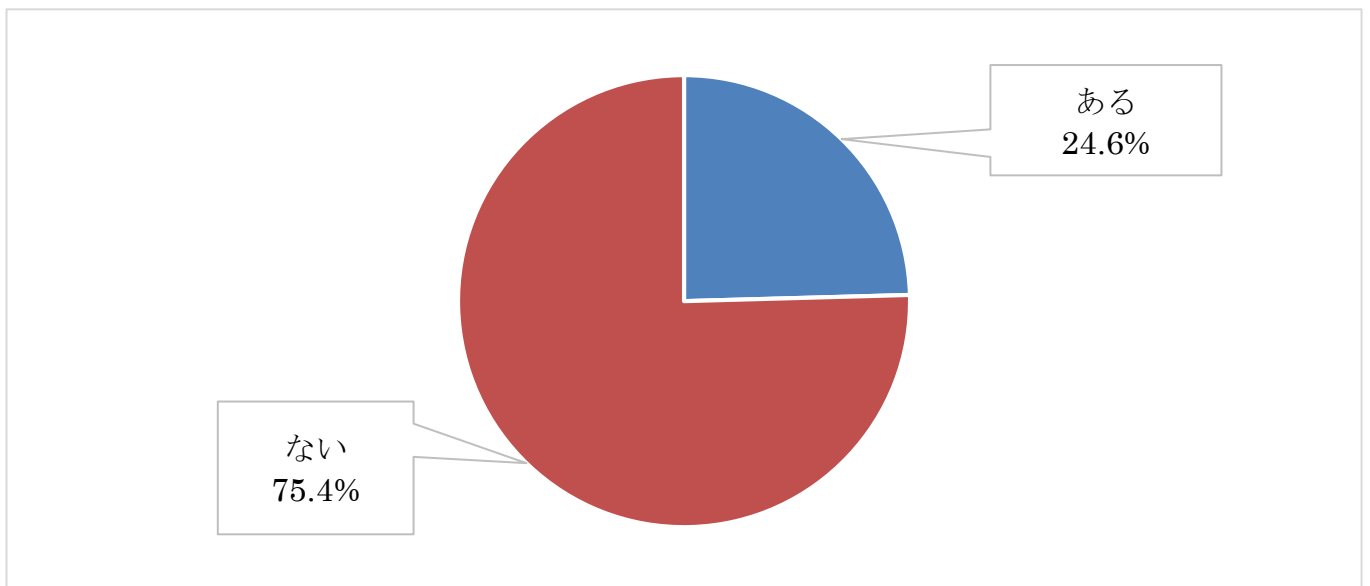
あなたの住む地域では、3年前と比較して、治安はどのようになったと思いますか。(択一)



居住する地域で、3年前と比較して、治安はどのようになったか聞いたところ、「良くなった」「どちらかと言えば良くなった」を合わせると9.8%、「どちらかと言えば悪くなった」「悪くなった」を合わせると14.0%でした。「どちらともいえない」は76.2%でした。

Q7 防犯・交通安全活動について

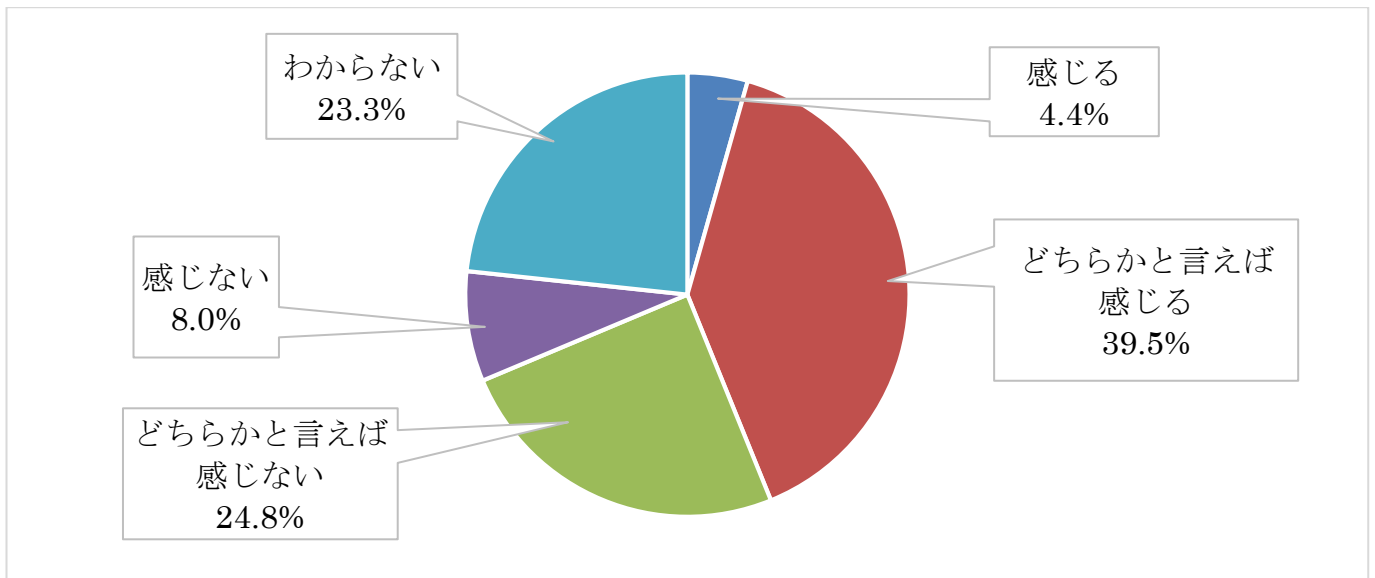
あなたは、地域で行われている防犯・交通安全活動に参加されたことはありますか。(択一)



地域で行われている防犯・交通安全活動に参加したことはあるかを聞いたところ、「ある」が24.6%、「ない」が75.4%でした。

Q8 子どもの犯罪被害について

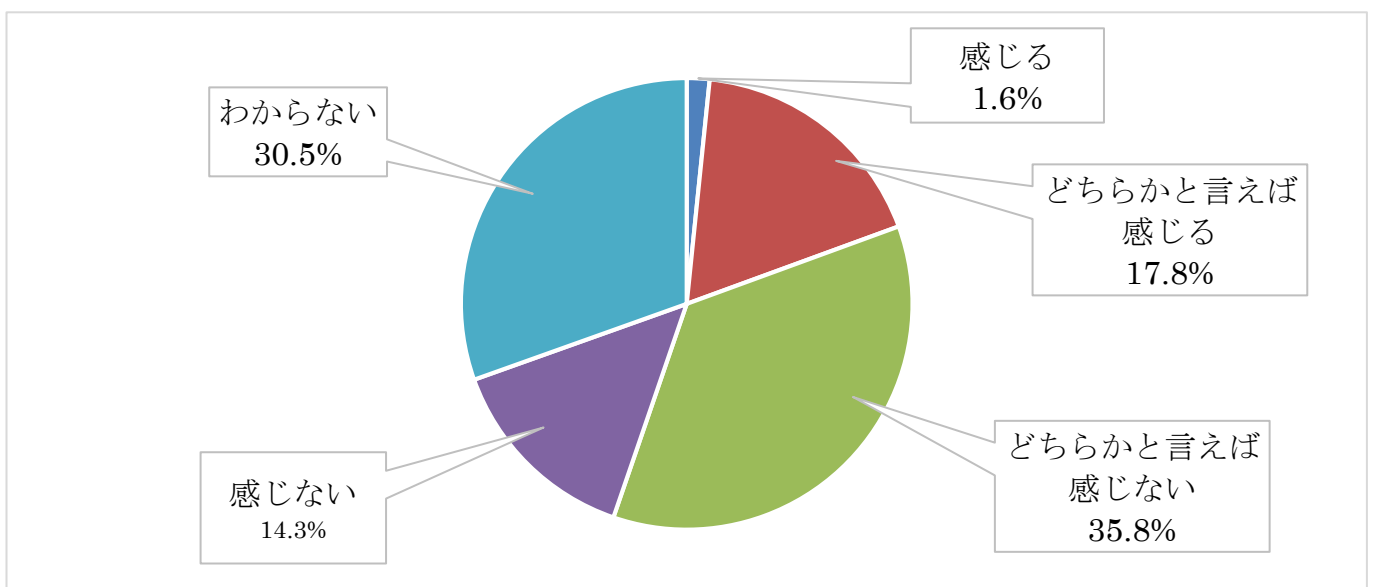
あなたは、地域の中で「子ども」が犯罪被害から守られていると感じますか。(択一)



地域の中で、「子ども」が犯罪被害から守られていると感じるかを聞いたところ、「感じる」「どちらかと言えば感じる」を合わせると 43.9%、「どちらかと言えば感じない」「感じない」を合わせると 31.3% でした。「わからない」は23.3%でした。

Q9 女性の犯罪被害について

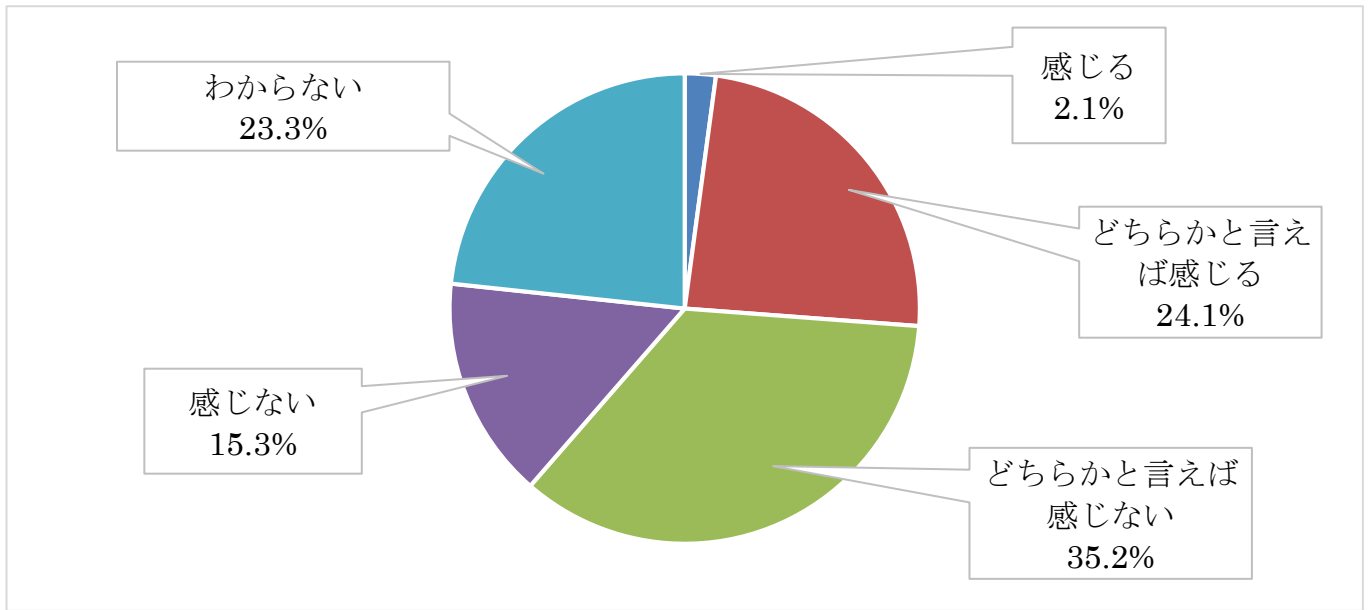
あなたは、地域の中で「女性」が犯罪被害から守られていると感じますか。(択一)



地域の中で、「女性」が犯罪被害から守られていると感じるかを聞いたところ、「感じる」「どちらかと言えば感じる」を合わせると19.4%、「どちらかと言えば感じない」「感じない」を合わせると44.8% でした。「わからない」は30.5%でした。

Q10 高齢者の犯罪被害について

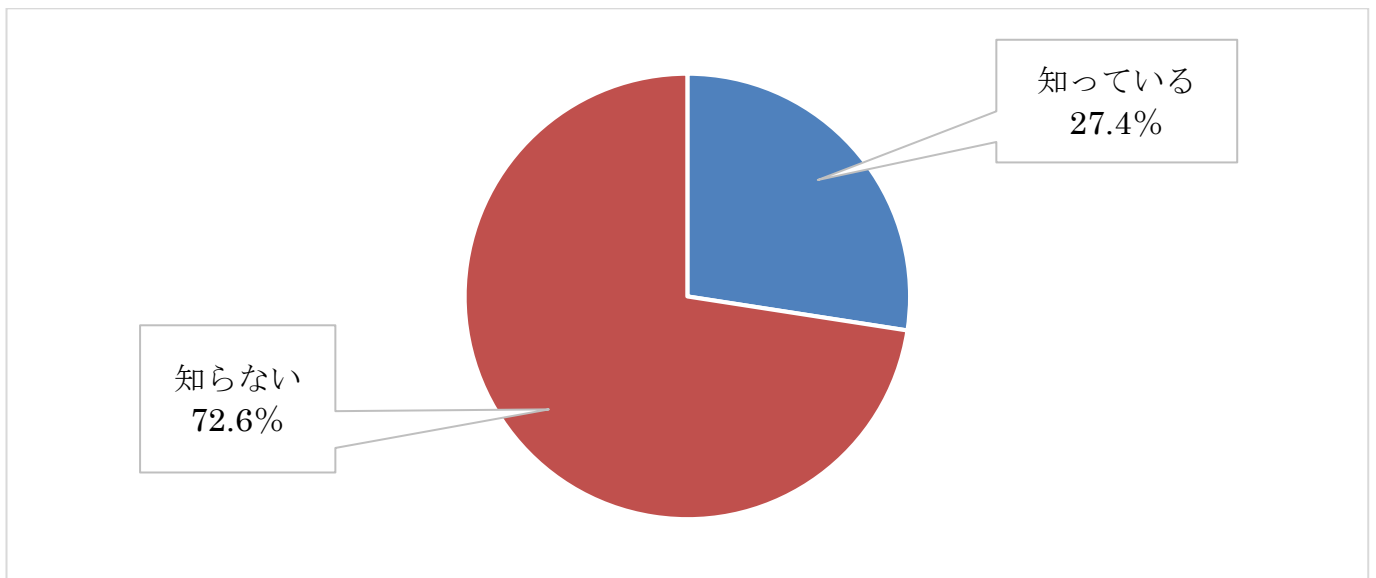
あなたは、地域の中で「高齢者」が犯罪被害から守られていると感じますか。(択一)



地域の中で、「高齢者」が犯罪被害から守られていると感じるかを聞いたところ、「感じる」「どちらかと言えば感じる」を合わせると26.2%、「どちらかと言えば感じない」「感じない」を合わせると50.3%でした。「わからない」は23.3%でした。

Q11 防犯・交通安全活動団体について

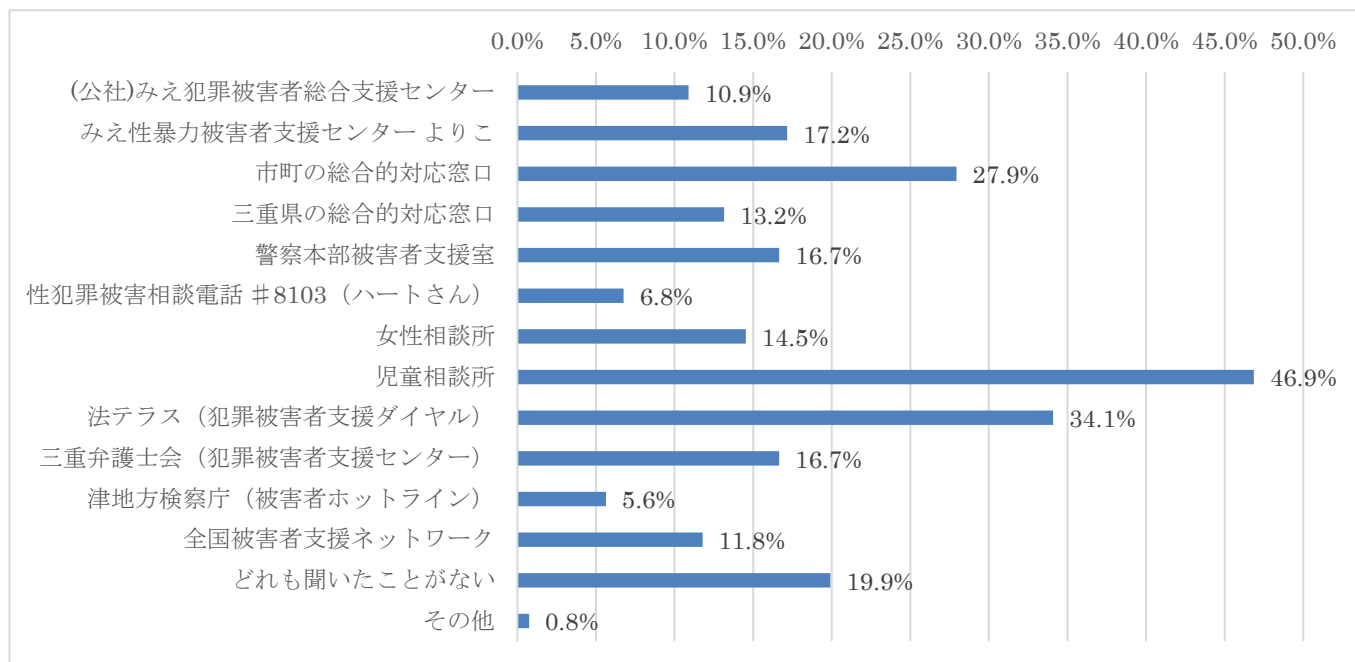
あなたは、お住いの地域で防犯・交通安全活動に取り組んでいる団体（事業者）を知っていますか。(択一)



お住いの地域で防犯・交通安全活動に取り組んでいる団体（事業者）を知っているかを聞いたところ「知っている」が27.4%、「知らない」が72.6%でした。

Q12 犯罪被害者等支援の相談窓口について

あなたの知っている犯罪被害者等支援の相談窓口はどれですか。知っているものをすべて選んでください（複数回答可）



知っている犯罪被害者等支援の相談窓口について聞いたところ、みえ性暴力被害者支援センター よりこが17.2%、公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センターが10.9%などでした。また、どれも聞いたことがないは19.9%でした。

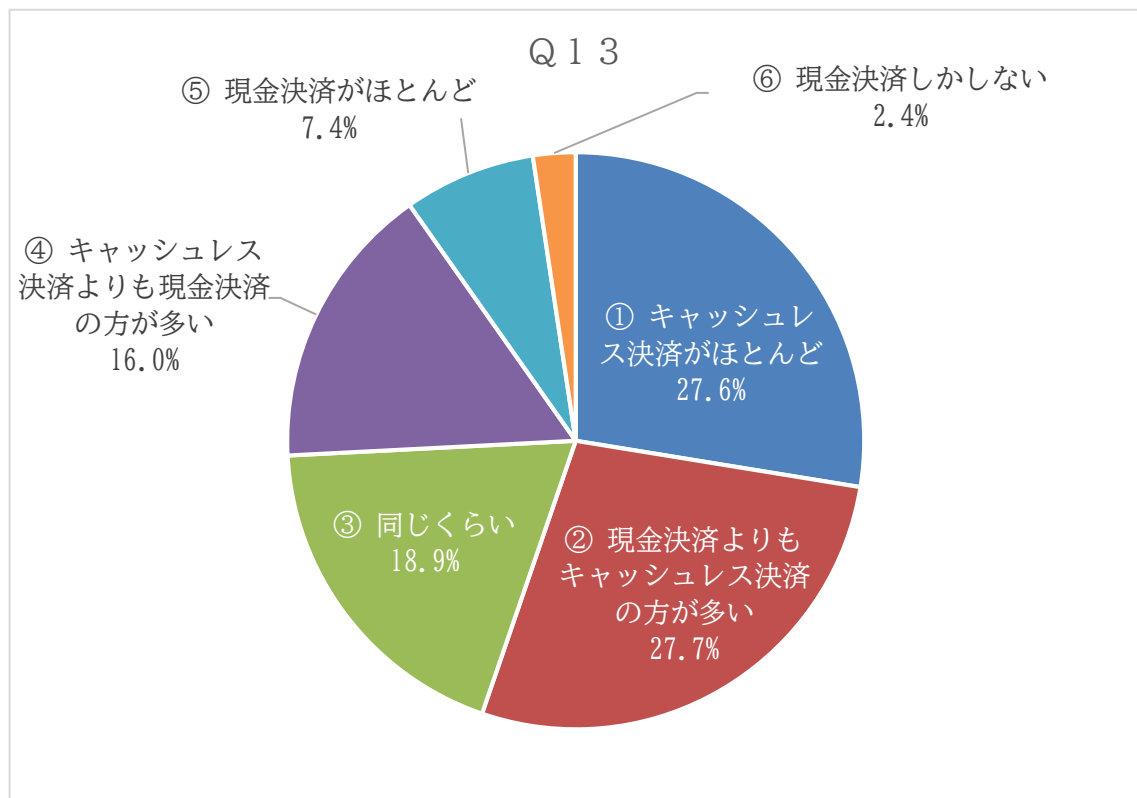
今後も、犯罪被害者等支援の相談窓口等の周知に努めていきます。

Q13 キャッシュレス決済の利用頻度について

あなたがお買い物や外食等をするときの、キャッシュレス決済（※）と現金決済の利用頻度について、あてはまるものを1つ選んでください。（回答者数：798人）

※キャッシュレス決済とは、クレジットカードやデビットカード、電子マネー（例：ICカードをタッチして支払う）、スマートフォン（例：QRコードを読み取って支払う）等を利用して、お札や小銭などの現金を使用せずに商品・サービスの代金・料金を支払うことです。

①キャッシュレス決済がほとんど	220人	27.6%
②現金決済よりもキャッシュレス決済の方が多い	221人	27.7%
③同じくらい	151人	18.9%
④キャッシュレス決済よりも現金決済の方が多い	128人	16.0%
⑤現金決済がほとんど	59人	7.4%
⑥現金決済しかない	19人	2.4%



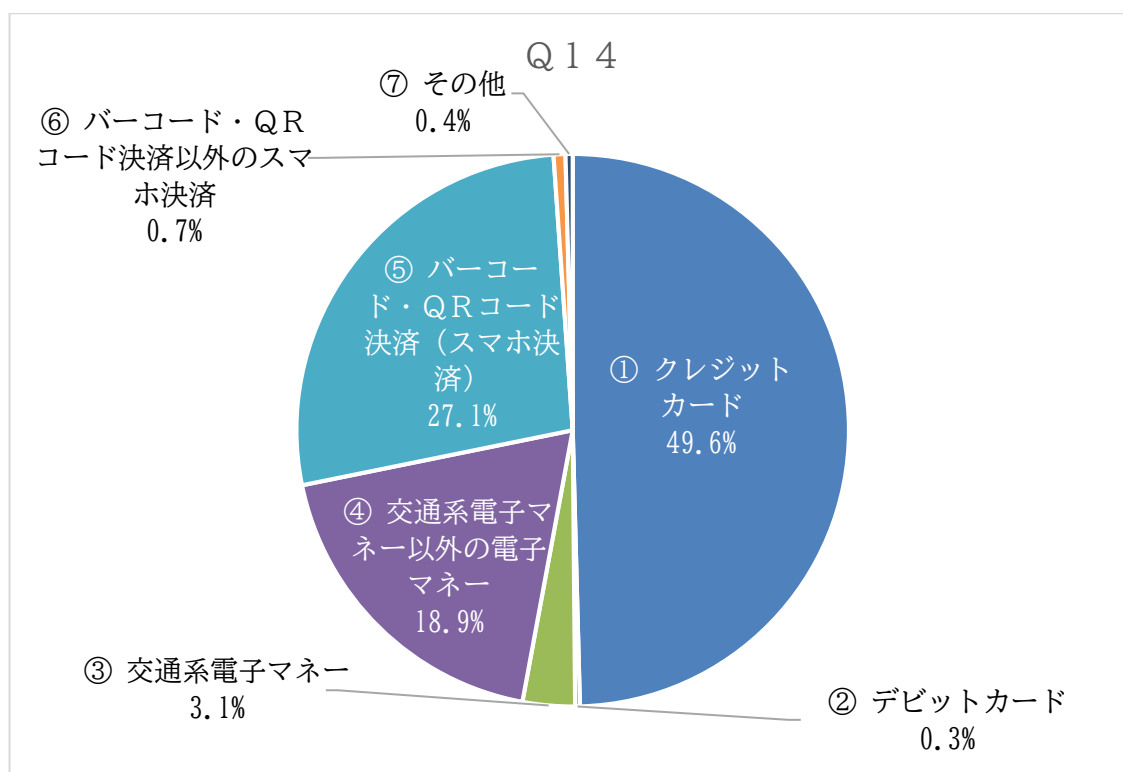
お買い物や外食等におけるキャッシュレス決済の利用頻度を調査した結果、「①キャッシュレス決済がほとんど」「②現金決済よりもキャッシュレス決済のほうが多い」と回答された方は全体（798人）の55.3%（441人）、「③同じくらい」と回答された方は18.9%（151人）、「④キャッシュレス決済よりも現金決済のほうが多い」と回答された方は16%（128人）、「⑤現金決済がほとんど」「⑥現金決済しかない」と回答された方は9.8%（78人）でした。

全体の約5割以上が、お買い物や外食等での支払いにおいて、現金決済よりもキャッシュレス決済を多く利用しているという結果になりました。

Q14 よく利用するキャッシュレス決済手段について

Q13で「キャッシュレス決済がほとんど」「現金決済よりもキャッシュレス決済の方が多い」「同じくらい」「キャッシュレス決済よりも現金決済の方が多い」を選んだ方にお伺いします。あなたがキャッシュレス決済を利用するとき、最も利用する回数が多い手段（サービス）について、あてはまるものを1つ選んでください。（回答者数：720人）

① クレジットカード	357人	49.6%
② デビットカード	2人	0.3%
③交通系電子マネー（Suica(スイカ)、ICOCA(イコカ)、PiTaPa(ピタパ)、manaca(マナカ)等)	22人	3.1%
④交通系電子マネー以外の電子マネー（WAON(ワオン)、楽天Edy(エディ)、nanaco(ナナコ)、iD(アイディー)、QUICPay(クイックペイ)等)	136人	18.9%
⑤バーコード・QRコード決済（スマホ決済） （PayPay(ペイペイ)、LINE Pay(ラインペイ)、楽天ペイ、d(ディー)払い、au PAY(エーユーペイ)等)	195人	27.1%
⑥バーコード・QRコード決済以外のスマホ決済（Apple Pay(アップルペイ)、Google Pay(グーグルペイ)等)	5人	0.7%
⑦その他	3人	0.4%



Q13で①～④の回答をされた方に対して、よく利用するキャッシュレス決済手段（1種類）を調査した結果、「①クレジットカード」が全体（720人）の49.6%（357人）と圧倒的に多く、次いで「⑤バーコード・QRコード決済（スマホ決済）」が27.1%（195人）、「④交通系電子マネー以外の電子マネー」が18.9%（136人）でした。

Q15 キャッシュレス決済が利用できず不便に感じた場所、事例について

Q13で「キャッシュレス決済がほとんど」「現金決済よりもキャッシュレス決済の方が多い」「同じくらい」「キャッシュレス決済よりも現金決済の方が多い」を選んだ方にお伺いします。日常生活の中で、キャッシュレス決済が利用できないことを不便に感じた場所、事例について、あてはまるものを全て選んでください。（回答者数：720人 ※複数回答あり）

① スーパーマーケット	140人	19.4%
② スーパーマーケット以外の小売店	211人	29.3%
③ 飲食店	203人	28.2%
④ 商店街	73人	10.1%
⑤ 美容室・理容室	130人	18.1%
⑥ 医療施設（病院・クリニック等）	270人	37.5%
⑦ 学校（各種証明書の手数料等）	57人	7.9%
⑧ 観光施設の入場料・入園料	109人	15.1%
⑨ スポーツ施設（運動公園等）の利用料	31人	4.3%
⑩ スポーツ施設を除く公共施設の利用料	28人	3.9%
⑪ 県庁舎・市役所・町役場で支払う手数料	118人	16.4%
⑫ タクシー	33人	4.6%
⑬ 駐車場	145人	20.1%
⑭ 自動販売機	106人	14.7%
⑮ 公共料金（電気・ガス・水道）	59人	8.2%
⑯ 飲食代等の割り勘	50人	6.9%
⑰ その他	26人	3.6%
⑱ 不便に感じた場所、事例はない	160人	22.2%

Q13で①～④の回答をされた方に対して、キャッシュレス決済が利用できないことを不便に感じた場所、事例を調査（複数回答可）した結果、全体（720人）のうち、37.5%（270人）の方が、「⑥医療施設（病院・クリニック等）」を挙げており、次いで「②スーパーマーケット以外の小売店」が29.3%（211人）、「③飲食店」が28.2%（203人）と続きました。

なお、その他の回答では、次のような場所、事例がありました。

- ・郵便局
- ・電車運賃、交通系ICカードが使えない鉄道 等